



応募名称

食品リサイクルループは命をつなぐ環

会社名、事業場名

ユニー株式会社

愛知県稲沢市 / <http://www.uny.co.jp/>

■ 具体的な取組内容 ■

【目的】

食料自給率がカロリーベースで40%に満たない日本では、多くの食料を輸入に頼りながらも沢山の食料品を廃棄しています。当社は食品リサイクル法を遵守して食品廃棄物の発生抑制に取り組みつつ、2005年より地域循環農業による「食品リサイクルループ」を構築し、循環の環を継続していくことを目標にしています。この環は食品廃棄物を資源として活用し、生産した農畜産物を消費者に購入してもらうことによる地産地消も実現しています。また、家庭ごみの60%を占める容器包装の3Rを推進することでCO₂削減を図っています。

これらの活動は「お買い物で環境貢献」を消費者と一緒に進める、持続可能な社会を目指したものです。

【具体的な内容】

2007年に全国で初めて、食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画」認定を受けて以来、店舗所在地域の再生利用事業者、農業生産者とのパートナーシップを基に、食品リサイクルループを構築し、運用しています。

2013年には、1府18県で16ループを構築することができました（現在は再生利用事業者の廃業などにより、14ループを運用、新たに2ループの構築を進めています）。当社のリサイクルループは、単に食品廃棄物をリサイクル処理することのみが目的ではなく、地域循環・地産地消などを意識し生産者と消費者を結び、安全安心な農畜産物を提供するという、小売業の役割を果たすことでもあります。

また、販売時の容器包装使用削減（レジ袋有料化など）、使用済み容器包装の店頭回収リサイクルを全店で実施しており、廃棄物の発生抑制と再資源化を推進した結果、CO₂削減に寄与しています。これらを継続的に推進するため、次世代を担う子ども達に環境教育や循環型農業体験を通じてSDGs*の取組を行っています。

そして、食を通して「生物多様性を大切にするお買い物」を実践しています。

*SDGs…2015年、国連持続可能なサミットにおいて全会一致で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」

【効果】

店舗から排出する全ての廃棄物を分別・計量することで、廃棄物発生抑制とリサイクル推進を実現しました。さらに廃棄物を分別することで食品リサイクルを推進でき、2016年度のリサイクル実績は、11,108tを再生製品化し、リサイクル率は63.6%、発生抑制を加味した再生利用等実施率は74.9%でした。

容器包装の3Rでは、2億7,000万枚のレジ袋を使用削減したことによりCO₂を8,317t削減でき、また、使用済みの容器包装を3,846tリサイクルすることで、16,344tのCO₂を削減することができました（合計24,661tのCO₂を削減）。

● リサイクルループを構築するパートナーシップ



■ 今後の展開 ■

これまで食品廃棄物をリサイクルループで資源化することに努めてきましたが、今後は製品廃棄（食品ロス）の発生抑制をフードチェーン全体で取り組みます。また、食品として価値のあるものは食品として利用するため、フードバンクや子ども食堂などの支援活動への参加を検討しています。

■ 評価 ■

「お買い物で環境貢献」の考えの下、小売業が中心となり消費者、生産者、再生利用事業者との信頼関係を築き、一体となった食品リサイクルループを構築し、長期にわたって継続的に推進・拡張している。特に各店舗に計量器を備え、組織的に廃棄物の分別・計量体制を整備・運用して、食品や包装材の廃棄物を削減し、CO₂削減に成果を挙げている点が高く評価できる。また、リサイクルループの拡大や環境教育を通じて「生物多様性を大切にするお買い物」のさらなる推進が期待される。